

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 足立 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ

※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

<男子>

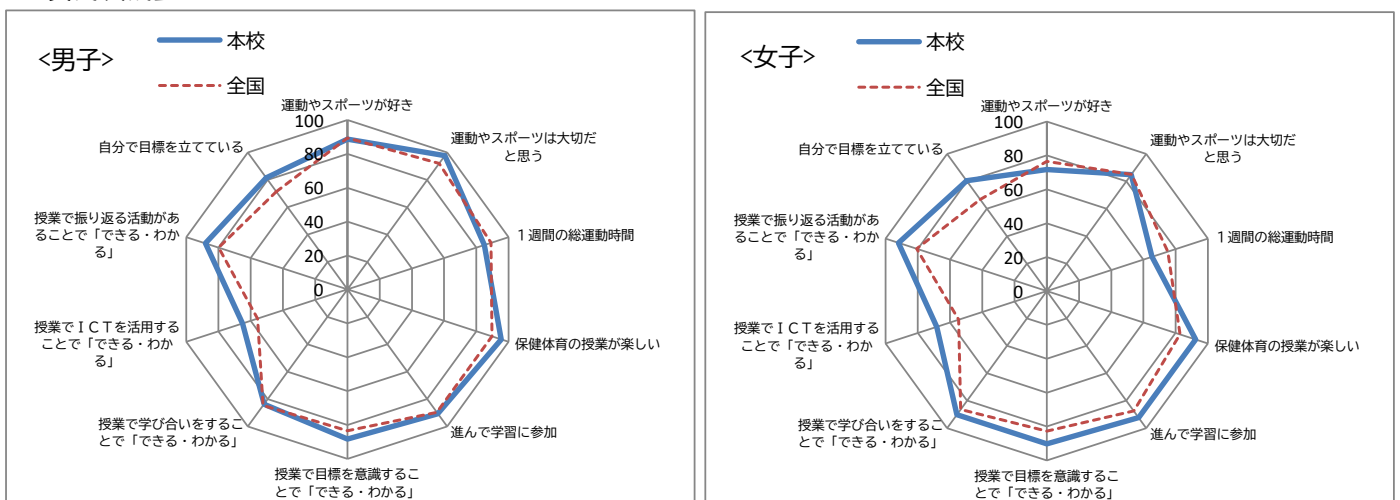
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
本市	29.72	26.24	46.29	51.95	413.28	80.12	7.86	201.52	20.51	43.46
本校全国平均以上の種目	○	○	○			○	○		○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22
本市	23.64	22.08	47.52	46.35	320.97	51.41	8.86	170.70	12.13	48.65
本校全国平均以上の種目	○	○	○			○	○			○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

本校の生徒は全体的に「運動やスポーツが好きだ」や「運動やスポーツは大切だと思ふ」という質問に対し、肯定的な意見が全国平均を上回るなど、運動やスポーツに親しむ意欲の向上が見られた。また、保健体育の授業においても「楽しい」や「進んで参加している」という項目で90%を上回るなど、生徒は高い水準で前向きな姿勢を示していると考えられる。授業内でもタブレットや映像を活用し、授業の工夫を図ってきた。その成果も多少ではあるが表れてきたと感じる。しかし、運動時間の確保で言えば、全国平均を下回っており、運動習慣がある者とそうでない者の二極化があるように感じる。次段階は、運動習慣のない生徒に対する働きかけが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

運動に親しむ姿勢の維持向上は、これからも保健体育の授業や昼休みのグラウンド開放を充実拡充させ、努めていきたい。本校の体力・運動技能の面では反復横とびや立ち幅とび、ハンドボール投げといった「巧緻性」や「敏捷性」、「瞬発力」を求められる項目の底上げが課題である。体や器具を巧みに動かす球技や、瞬発力を必要とする陸上競技を扱う授業にて更なる工夫を心がけていきたい。また、運動習慣のない生徒に対しても、授業中において「できる・できた」という達成感や充実感を感じられるように、「スモールステップ」を意識した授業展開を行っていきたい。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

引き続き、昼休みのグラウンド開放を充実させていきたい。年々この時間を活用する生徒数は増加しており、運動習慣の定着に一役担っている。それ故にボール等の器具の消耗もあり、補充を行う必要がある。運動環境の質向上を図ってきたい。また、体力・技能面で課題となった体力要素に関しては、授業の補助運動にて改善・克服を行ってきたい。